ダイバーシティ事業　PI養成事前調査プログラム

報告書

報告日：2019年2月27日

派遣者所属名	神戸大学保健学研究科
派遣者氏名	野田和惠

国際共同研究タイトル：高齢者向け支援機器や道具の認知面に着目した評価　KIREUMを使って

本研究で使用するThe Karolimska Institutet Rapid Ease of Use Mapping of technology (以下、KIREUM)についての情報を得ることが事前調査プログラムの目的であった。認知面に着目したテクノロジー評価指標であるKIREUMは日本語版が無いため、まずは英語から日本語への翻訳と日本語版の作成が必要である。そこで、派遣期間中に以下の点について、事前調査を行った。

1. Karolimska Institutet(KI/Sweden) のNygård教授から評価指標についてのレクチャーを受け、日本語版作成に必要な情報を得た。
   18 February 2019, KI, Professor Louise Nygård and Dr. Camilla Walles Malinowsky.
2. 日本から持参したKIREUM英語版のトライヤルの情報をもとに変更や修正が必要な箇所を確認し、改変の打ち合わせをした。
   18 February 2019, KI, Professor Louise Nygård and Eva Lindqvist.
3. Nygård教授とそのチームメンバー（CACTUS team）から、スウェーデンでの高齢者向け支援機器や道具そして支援システムや研究の実施例を紹介してもらい、日本で実施する際の参考となる情報を得た。
   - 19 February 2019, KI, CACTUS Team's new and ongoing research; Professor Louise Nygård, Ms. Sarah Walllcook, Ms. Elin Jacobsson, Dr. Camilla Walles Malinowsky and Dr. Anna Brorsson.
   - 20 February 2019, FOU NORDOST, Dr. Annicka Hedman, PhD and research manager.
   - 20 February 2019, Mörby Primärvårdsrehab, Ms. Jenny Nilsson, PT.
   - 21, 22 February 2019, Verklinghetslabb Stureby (Living Lab), Professor Lena Borell.

これらで得た情報は、本研究での評価指標や手法に大変有用なものであった。これらをもとに2019年からスウェーデンとの国際共同研究を実施していく計画である。

海外派遣終了後の進捗状況(2020年度3月現在)

開始年度：2020年。国際共同研究者：Professor Ma Hui-ing(National Cheng Kung University)。研究概要：高齢者のなかでさらにターゲットを絞り、密接に関係するパーキンソン症候群、レビー小体型認知症(DLB)、フレイルの訓練方法や生活支援を標準化する研究を計画している。この研究では運動機能、聴覚、嚥下機能、認知機能に焦点を当てる。チームメンバーは保健学研究科の作業療法士と医師である。将来的にKarolimska InstitutetやChiang Mai University(Thai) との共同研究の開始も視野に入れて進める計画である。

海外派遣終了後の進捗状況(2021 年 3 月現在)

2019 年度、Louise Nygard 教授(Karolinska 研究所・スウェーデン)、
Nygard 教授らが開発した The Karolinska Institute Rapid Ease of Use Mapping of technology (以下、KIRIUM)を使用して「認知に着目した高齢者に支援機器をマッチングさせる手法の研究」を進めている。新型コロナ感染症拡大により、高齢者を対象にしたデータ収集が困難となり、別の手段(Web 等でのデータ収集や対象者の変更など)を検討し、進めているところである。データがそろわないため、スウェーデンとの打ち合わせなどはできていない。

海外派遣終了後の進捗状況(2022 年 3 月現在)

2019 年度、Louise Nygard 教授(Karolinska 研究所・スウェーデン)、Nygard 教授らが開発した The Karolinska Institute Rapid Ease of Use Mapping of technology (以下、KIRIUM)を使用して「認知に着目した高齢者に支援機器をマッチングさせる手法の研究」を進めている。新型コロナ感染症拡大により、高齢者を対象にしたデータ収集が困難となり、高齢施設でのオンライン面会の場面を利用して研究を進めた。ICT 機器に限局されたデータにとどまったため、他の生活場面でのテクノロジーに範囲を拡大するべく段取り中である。